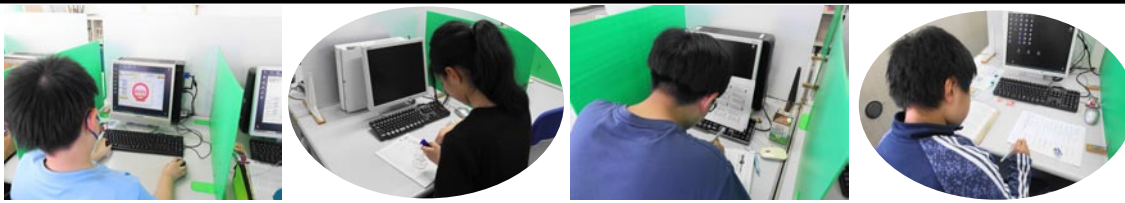


ホップ・ステップ



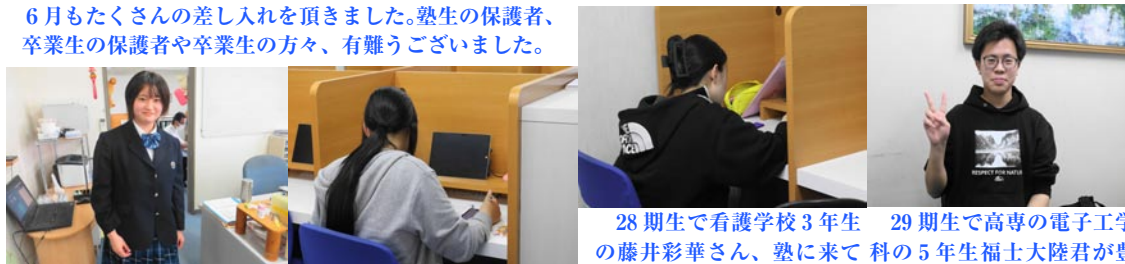
第213号
2024年7月1日発行



いよいよ7月5日は漢字検定です。小学生、中学生合わせて13名が受験します。合格目指して！



中体連のバドミントンに出場した別保中2年生の川尻瞭太君(左)と友達。試合は惜しくも…来年ですね！



33期生で今年、厚岸翔洋高校の海洋資源科に進んだ成田すみれさんがテストの結果を見せに来てくれました。32期生で江南高校2年生の沖田仁歩さんは演劇部に所属しながら勉強もしっかり取り組んでいます！

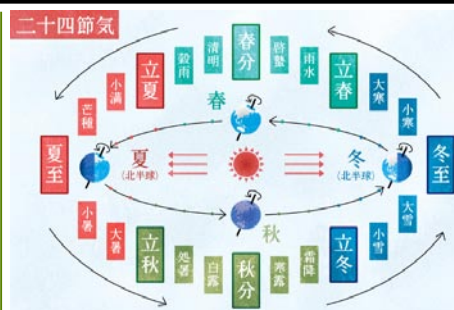
28期生で看護学校3年生の藤井彩華さん、塾に来て実習のレポート作成にきています。今年12月まで実習があるようでレポート作成はとて大変そうですよ。差がつくはずですね！

29期生で高専の電子工学科の5年生福士大陸君が豊橋技術科学大学に合格したことを報告に。大学院までさらに4年間勉強します。

この日はオンラインで開講式が行われ、半導体人材育成推進室の箕耕司室長(旭川高専教授)が「ラピダスが進出し、北海道の産業が変わる大きな機会になっている。『半導体を使って自分は何ができるのか』を考える授業にしてほしい」と呼びかけた。

初回の講座は、旭川高専の松原英一准教授が「半導体と社会」をテーマに、これからの暮らしにおける半導体の重要性や日本と世界の半導体産業の状況などを解説。1、2年のみを対象にした苫小牧高専は、開講式後も10人ほどが教室に残って、配信された授業を熱心に聞いていた。

ラピダスの工場は25年4月の試作ライン稼働に向け、建屋の建設が進んでいる。【平山公崇】
今、高専は企業から最も期待されていますよ！



★一年の半分が終わりました！★
6月21日が夏至で1年のうちで日の出から日の入りまでの時間も長い日です。夏至が過ぎたということはこれからは昼間の時間はどんどん短くなっていきます。とはいっても季節はこれからが夏です。ちなみに、夏至という日本での名前は、二十四節気(にじゅうしせつき)という中国の古いこよみから来ています。昨年は釧路地方も経験したことのない暑い日が続きました。そこで釧路市教育委員会は今年度から市立の小中学校などの夏休みを5日間延ばし30日間とす

ることになりました。勉強時間が増えますね！
26日からは夏期講座がスタートします。中1、2年は一日3時間、中3生は4時間です。今年も暑いと思われるので出来る限り午前中(9時)からの3時間、4時間がいいと思います。特に中3生は高校入試まで8ヶ月ですから志望校に向かって各教科の基礎の部分や弱点克服に取り組むことの出来る大事な期間です。しかし、学力は、いい学校、いい企業に入るためではなく、社会に必要なスキル、社会に貢献できる人になるためのものです。
AI時代の今、必要とされる人材は多くの情報、知識から正しい判断ができ、自ら考え、自ら行動出来る人です。とにかく積極的に！
**半導体技術者育成に力
ラピダス進出で、道内4高専共同講座
すそ野拡大へ1、3年向け開設**
次世代半導体の国産化を目指すラピダス(東

京)が千歳市に進出し、道内で半導体に関わる人材の需要が高まる中、旭川、釧路、函館、苫小牧市にある道内4高専が共同講座を開講し、人材の育成に取り組むことになった。1、3年向けの「北海道半導体みらい論」で、初めての授業が24日にあり、オンラインで4校を結んで行われた。
新たな共同講座は、幅広い視点から半導体やその産業への理解を深めるため、選択科目として開設された。各高専の機械系、電気・電子系、情報・制御系、化学系などの教員や国や道から外部講師を招き、動画配信によるオンデマンド形式で計15回、行われる。



道内の4高専が開講した半導体技術者を育成する共同講座は北海道苫小牧市で24年6月24日、平山公崇撮影

4高専は昨年9月、半導体を含む産業全体を支える「高度理系人材」の育成を表明。半導体に特化した授業を各高専で始めたほか、各種講演会や出前授業にも力を入れてきた。また、今年1月に「北海道地区4高専半導体人材育成推進室」を設立。旭川、釧路の2高専が他高専に先行する形で、4、5年向けの半導体専門科目も設けている。

今回は、人材ニーズの急拡大に対応する狙いで、よりすそ野を広げて、1、3年向けの半導体教育を始めることにした。4高専で354人(旭川126人、釧路133人、函館57人、苫小牧38人)が半導体の基礎やさまざまな産業との関わりなどを学ぶ。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|--------------|----|------|----------------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|------|---------------|------|----|------------------------------|---|---|-----------------------|---|--------|---|---|---|---|--|--|
| 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 水 | 火 | 月 | 日 | 土 | 金 | 木 | 水 | 火 | 月 | 日 | 土 | 金 | 木 | 水 | 火 | 月 | 日 | 土 | 金 | 木 | 水 | 火 | 月 | 日 | 土 | 金 | 木 | 水 | 火 | 月 | | |
| 夏期講座 | 夏期講座 | 夏期講座スタート(中1) | 休塾 | 夏期講座 | 夏期講座スタート(中2、3) | 夏期講座準備休み | | | | 休塾 | | | | | | 海の日 休塾 | 休塾 | | 富原定期 | | | | | 休塾 | | ☆漢字検定☆ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 漢字検定 | 1 高校入試・進学に効く! | | | 2 「合格」を手にする事で「自信」と「やる気」が身につく | | | 3 すべての教科に必要な基礎学力が身につく | | | | | | | | |

終わったら帰れる今日の1題 (No. 22)

$$0.75 \div \left(\frac{3}{4}\right)^2 - 0.25 \div \frac{3}{4} = \frac{1}{4}$$

終わったら帰れる今日の1題 (No. 18)

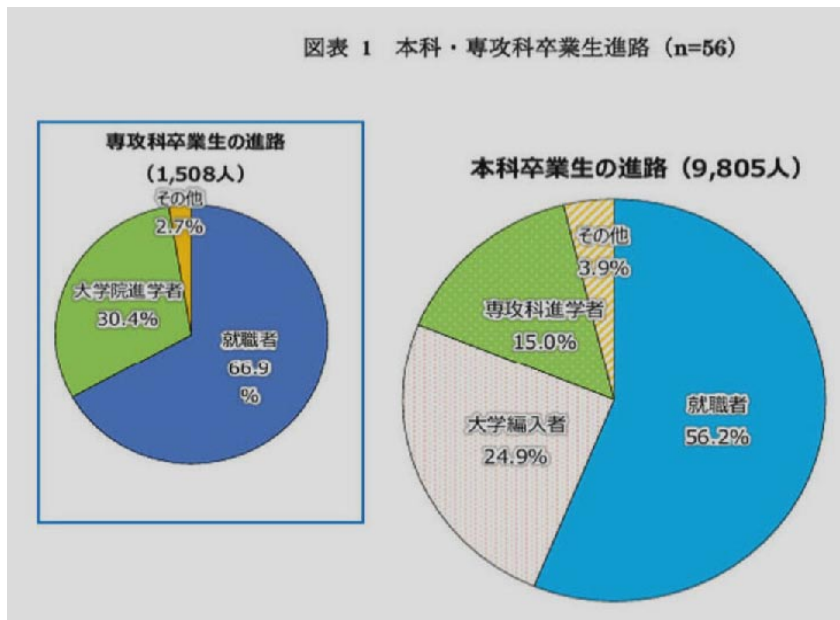
終わったら帰れる今日の1題 (No. 23)

4つの数字1、3、4、7を
+、-、×、÷とカッコを使って、35を作れ。
記号は何回使ってもよい

□□□□=35

文科省、高専卒者のキャリアパス調査研究報告書を公開

文部科学省は2024年6月7日、「高等専門学校卒業生のキャリアパス等に関する調査研究」報告書を公開した。専門的能力が優れていると評価される高専卒業生の就職時の処遇は、大卒者より低い傾向にあるといわれる。これは学位の有無が影響しているのか、詳しく分析している。



文部科学省は2024年6月7日、「高等専門学校卒業生のキャリアパス等に関する調査研究」報告書を公開した。専門的能力が優れていると評価される高専卒業生の就職時の処遇は、大卒者より低い傾向にあるといわれる。これは学位の有無が影響しているのか、詳しく分析している。

「高等専門学校卒業生のキャリアパス等に関する調査研究」は高専生のキャリアパスや進路選択にあたっての要因の現状を把握することを目的に2023年11月～12月、リベルタス・コンサルティングが文部科学省の委託を受け実施。高等専門学校56校、国立大学84校、2022年度高専卒業生の回答788件、高専を最終学歴とした人材を採用した企業の回答682件をもとに、就職後の高専卒業生と大卒者との処遇の差、特に、学位の有無が企業における給与の決定などに影響を与えているかを詳しく分析した。

2022年度の高専卒生のうち、本科卒の進路は「就職者」が全体の6割弱、「大学編入者」が2割強、「専攻科進学者」が1割強。専攻科卒の進路は、「就職者」が7割弱、「大学院進学者」が約3割。就職先の企業規模は本科・専攻科のいずれも企業規模は1,000人以上の大企業の割合が高く、職種は技術者の割合が高い。

学校推薦で就職した割合は、本科で8割近く。学校推薦については、約4割が「高専卒業生の給与水準が大卒と比較すると低い」「高専卒業生の配属ポジションに大卒との差がある」など大卒との差を課題としてあげているが、課題が「特になし」学校の割合も約4割あった。

高専は学位が取得できないが、学位のないことによる就職活動における支障の有無を調べたところ、9割近くが「支障なし」と回答。実際に支障が生じた事例は、大卒または専攻科卒限定の求人があることだった。

一方、企業調査によると「高専生からの一般応募が少ない」「企業の需要に対し、学校側からの高専生の紹介が不足している」「企業が高専生にアピールする機会が少ない」などといった課題が聞かれた。

回答企業のうち、高専卒社員（本科卒・専攻科卒計）が「21人以上」在籍している企業は全体の約2割、従業員規模が大きいほど、高専卒社員の数も多い。

高専卒の処遇については、新卒時は「大学学部卒と同等」以上の企業は少ないものの、40歳時には約4割に増加。「大卒未満」の給与水準となっている割合は、1,000人未満の製造業において割合が高く5割を超えていた。

大卒者と比較して高専本科卒者の給与が低い理由としては、半数以上の企業が「学修歴により給与テーブルが異なるため」と回答し、成果などを理由とする企業はほとんどなかった。昇進スピードや定着率、能力は、大卒と高専卒で同等と考える企業が多く、小規模の製造業を中心に「高専卒の方が資質・能力が高い」と回答している企業も存在した。

リセマム 2024.6.18

日本人の英語スピーキング力、最多は初級「A2 High」

66万人の受験データから、日本人の英語スピーキング力はグローバルビジネスで通用するレベルがわずか7%であることが2024年6月17日、レ

アジョブ法人向け事業子会社プロゴスの調査からわかった。業種・職種・役職別の分析では、どのビジネスパーソンより学生の方がレベルが高いことも明らかに。



アジョブグループは2020年6月より、国際的な言語力指標である「CEFR」に準拠したAIビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS」を展開。日本人の英語スピーキング力調査では、「PROGOS」に4年間蓄積した、世界77の国・地域の大学や企業など延べ66万人の大規模受験データを調査・分析した。

受験者のうち日本人のビジネスパーソン（一部、大学生含む）は42万人。日本人のスピーキング力は、英語で業務できるレベルに満たない初級程度「A2 High」がもっとも多く、グローバルビジネスで通用する「B2」以上のレベルはわずか7%にとどまった。対して、海外受験者の最多レベルは「B1 High」で、「B2」以上は4分の1を超えており、日本人のスピーキング力の低さが露呈した。

次に業務で英語を使うのに最低限必要なレベル「B1」、英語で責任ある仕事ができるレベル「B2」を、受験者の業種・職種・役職別で分析。その結果、ビジネスパーソンの中の職種よりも、学生のレベルがもっとも高いことが明らかとなった。役職別でみると、「B2」以上の割合は「取締役・役員」がもっとも高く、ついで「係長」「本部長（事務部長）」と続いた。「B1」以上の割合は、「一般社員」が47.9%でもっとも少なかったのに対し、管理職と役員は軒並み半数を超えた。

次に、IT・インターネット、コンサルティング、メーカー（メディカルを除く）、エンターテインメント、メディカル（医薬品、医療機器）、運輸・交通に絞り、業種別でみたところ、コンサルティングがB1以上が60%を超え、もっともスピーキング力が高いことがわかった。

また、グローバル関連部署と企業全体を比較すると、グローバル関連の部署のスピーキング力は予想通り高いものの、グローバルビジネスで通用する、責任のある仕事ができる「B2」以上は1割程度にとどまった。

最後に、英語を学ぶビジネスパーソンが多くが受験しているTOEIC L&RとPROGOSの両方を受けた6万9,350人の受験データを分析。CEFRレベルを共通の尺度として比較した結果、リスニング力とリーディング力が「B2」以上の人でも相応のスピーキング力をもつ人はわずか18%と、リスニング・リーディング力が高くても、スピーキング力が高いとは限らないことがわかった。

今回の調査では、日本企業のグローバル展開が活発化しているにもかかわらず、それを担うべき人材の英語力、特にスピーキング力が追いついておらず、語学力の面でもグローバル戦略の実効性を裏付ける人材の育成・確保の必要性が浮き彫りとなった。

リセマム 2024.6.21

これが日本英語教育の現実で、日本人の英語スピーキング力はグローバルビジネスで通用するレベルがわずか7%、英語で責任ある仕事ができるB2レベルも18%と、リスニング・リーディング力が高くても、スピーキング力が高いとは限らないことがわかります。

これは日本の英語教育に問題があるからです。小学校の3年生から英語を初めても話せるようにはならないのが現実です。試験重視の英語教育は記憶中心の学習で、大学入試や高校入試に合格するための勉強が重要視されているからです。また、授業ではリーディングやライティングに重点が置かれ、スピーキングやリスニングの練習が十分に行われていません。

決定的なのは英語を学ぶ目的の欠如です。学生が英語を学ぶ明確な目的を持っていない場合、当然学習のモチベーションが低下します。英語を使って何をしたいか、どのように役立てたいかを明確になっていないことが英語を話せるようにならない最大の原因ですね。英語力の前に国語力です！